

令和5年度第1回総合教育会議議事録

日 時 令和5年7月20日(木)
午後3時から午後4時30分まで
場 所 国分寺市立教育センター2階 203・204号室

会議の出席者

(構成員)

市長	井澤邦夫
教育長	古屋真宏
教育委員会教育長職務代理者	富山謙一
教育委員会委員	大木桃代
教育委員会委員	辻 亜希子
教育委員会委員	藤井健志

(説明員)

教育部長	可児泰則
政策部長	沢柳和彦
政策経営課長	渡邊浩典
市政戦略室長	村越隆治
教育総務課長	廣瀬喜朗
学務課長	柳 功一
学校指導課長	高橋美香
学校教育担当課長	關 友矩
社会教育課長	日高久善
ふるさと文化財課長	新出尚三
市史編さん担当課長	一ノ瀬 理
市史編さん担当係長	依田亮一
公民館課長	本多美子
図書館課長	有賀真由美

(事務局)

政策経営課職員(2人)
教育総務課職員(2人)

傍聴人 0人

1 開会

市長 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、第1回総合教育会議に御出席を賜り、誠にありがとうございます。令和5年度第1回総合教育会議を開催いたします。一年ぶりの総合教育会議になります。

2 協議・調整事項

(1)「大きく育てよう 国分寺愛 ～新たな国分寺市史編さん事業のスタートに当たって～」

市長 次第に従い、会議を進行いたします。

本日の協議・調整事項は、「大きく育てよう 国分寺愛 ～新たな国分寺市史編さん事業のスタートに当たって～」です。

昨年度は武蔵国分寺跡が国史跡指定100周年に当たり、国分寺市は数多くの記念事業を行ってまいりました。キャッチフレーズは、「天平の記憶 つないだ100年 つなぐ100年」としておりましたが、まさにそれを体現するように、子どもから大人まで多くの方に参加をいただき、歴史を学び、国分寺のまちの魅力を再認識し、未来へつなげることができた節目の年となりました。

そして来年度、令和6年11月には市制施行60周年を迎えます。これを契機とした市史の再編さんに向けた検討に着手するために、今年度当初より市史編さん担当の部署を新設しました。市史編さん事業をスタートするに当たり、市民の方々にさらに国分寺市に愛着を持っていただき、地元愛、国分寺愛を大きく育てていっていただきたいといった気運を醸成していきたいと考えています。

折しも、市内の小・中学校では、「国分寺学」という学びを進めています。地域に親しみ、地域に学び、地域を考え、地域に貢献することを目的とした学習です。これからの国分寺市の歴史をつくっていく子どもたちにぜひ関わってほしいと思います。

本日の総合教育会議では、皆様から活発な意見やアイデアをいただき、市史編さん事業に大きなはずみをつけていきたいと思っています。

国分寺市にとってこの数年は非常に大きな節目を迎えます。市政で言いますと、令和7年度から第2次の国分寺市総合ビジョンがスタートを切り、また国分寺市教育ビジョンも第3次を迎えます。

また、西国分寺駅に武蔵野線が開通してちょうど今年で50年を迎える年でもあります。また、御存知のように、関東大震災から100年です。防災面でも力を入れているところですが、国分寺市はそのような歴史を数多く持っている魅力あるまちだと思います。

それらも含めて、市史編さんに当たっては、多くの国分寺市の魅力を後世につないでいきたいと思っていますので、担当においては、しっかりと進めていただきたいと思います。

それでは、ふるさと文化財課長から順番に、資料の説明をお願いします。

ふるさと文化財課長 昨年度は、武蔵国分寺跡が大正11年に国から史跡指定されて100周年の節目の年でした。このため、市を挙げて多くのイベントを実施してまいりました。ふるさと文化財課で行った事業については、資料1-1にまとめていますが、このほかにも他課や市民活動団体が国史跡指定100周年の記念事業を多く行っています。

本日は、その中でも子どもたちに向けた事業についての報告をさせていただきます。

資料1-1を御覧ください。

1点目、学校への通知ですが、4月29日のオープニングイベント、また10月22日の記念講演会の開催に合わせ、教育長より全中学生に向けて、国分寺の建立の経緯と100周年の意義についてのメッセージを1人1枚配布しました。普段の学校の授業で学ぶことからさらに踏み込んで、国分寺建立の状況が現在の社会状況に似ていること、また、教科書等で学ぶことと自分たちが住んでいる国分寺市につながりがあるということ、そして、過去の歴史が自分たちとは切っても切り離せない関係があること、自分たちも歴史のワンシーンに生きていることをメッセージとして伝えました。

また、昨年度募集しました100周年のロゴマークとキャッチフレーズも素晴らしいものでした。できるだけ多くの子どもたちの目に触れるよう、学校へ積極的な使用をお願いしました。

2点目、各学校の取組です。各学校においても積極的に100周年に関わっていただきました。特に6年生の校外学習については、コロナ禍により令和2年、3年と全校での参加はできませんでしたが、昨年度は全校が参加できました。その他、各学校の学習発表会等で100周年に関わる取組を行った例があります。

3点目、子ども向けイベントですが、昨年度は通常の年の倍のイベントを開催しています。その中でも人気だったのがレプリカの作成です。資料1-1の12番、子ども向けイベント「レプリカをつくろう」。こちらは夏休みのイベントですが、これと同様のものを秋にも開催しています。27番の秋の子ども向けイベント「レプリカをつくろう」です。昨年度も定員以上の申込みがありました。

また、参加人数が多かった事業としては、青年会議所主催の「ぶんじ子どもフェスタ」へのブース出店です。資料の16番、「ぶんじ子どもフェスタ『史跡ぬりえ』」として報告していますが、当日は213人の子どもたちにぬりえを楽しんでいただきました。

4点目、気運醸成事業ですが、イベントに参加しない、もしくは興味がないという人たちにとっても、100周年ということ意識してもらえるように、ロゴマーク、またキャッチフレーズを活用しました。具体的には、市内公共施設への横断幕の設置、国分寺駅と西国分寺駅の街灯へのバナーフラッグの掲出、缶バッチの作成・配布などがあります。

昨年度、このように国史跡指定100周年の記念事業として、事業を行ってきたことにより、子どもたちがその意味を十分に理解していなかったとしても、特別な年に自分たちが生きてきているのだということを感じられたのではないかと思います。さらに理解が深まった子どもたちにとっては、歴史というものが先人たちの努力により引き継がれた貴重なものであり、また、子どもたちもその歴史を引き継ぎ、次世代につなげていく責任があるのだという意識につながったものと考えています。そのことが歴史や国分寺市を好きな人間の育成にもつながったものと考えています。以上、100周年の報告をさせていただきました。

学校教育担当課長 史跡指定100周年ということで、市立小・中学校では様々な取組を行いました。主なものについて御紹介します。

資料1-2、「史跡指定100周年に関わる国分寺市立学校の取組」の左上の写真を御覧ください。第三小学校、第五小学校、第八小学校、第十小学校では、史跡指定100周年をイメージし、七重の塔をかたどったパンを給食で提供しました。児童からは大変好評であったと聞いています。

また、上段一番右の写真を御覧ください。第二小学校では、総合的な学習の時間に、

「国分寺の魅力を発信しよう」をテーマとし、6年生が個々に課題を設定し、国分寺市の魅力を発信するためのプレゼンテーションを計画して、3年生を対象に発表会を行いました。

続いて、下段の左から3つ目の写真を御覧ください。第五小学校では、夏休みに実施しているサマースクールで、地域の方をゲストティーチャーとして招き、「武蔵国分寺の造営と身近な国分寺の歴史」について学ぶ機会を設定しました。国史跡指定100周年を記念しての各校の取組は、児童・生徒が、自分たちが住んでいる国分寺市について改めて考える機会になったと思います。

続いて、資料1-3を御覧ください。こちらは、児童・生徒が学んでいる「国分寺の郷土学習の状況」です。横軸が小学校段階から中学校段階への学びの姿を表しています。地域に親しむことから始まり、地域に学び、地域を考え、地域に貢献する学習に発展していきます。ただし、この学びの姿は、発達の段階で循環し、小学校低学年の段階でも、児童の主体的な姿を想定して、例えば地域の花壇に花を植えるなど、地域に貢献する姿も見られると思います。縦軸の上段が各学校の共通の取組として、市内全小・中学校で学習している内容となっています。下段が、各学校が独自の学習計画を立てて、取り組んでいる内容です。

例えば、上段の小学校6年生、総合的な学習の時間、史跡武蔵国分寺跡周辺の校外学習では、6年生の児童がおたかの道湧水園や武蔵国分寺跡資料館を訪れ、ふるさと文化財課の学芸員が解説・案内をしています。また、下段の各学校の独自の取組では、第四小学校1年生の生活科の学習で、地元の農家である小坂農園さんの協力を得て、サツマイモの収穫体験を行っています。続いて、5年生の一番下の四角を御覧ください。第七小学校では、総合的な学習の時間で、「国分寺PR大作戦」という学習を計画しています。児童が地域を回り、情報を集め、PR動画を作成し、コミュニティスクール委員の方々に披露するという学習の流れで取り組んでいます。

こちらの資料に例として記載しているとおり、各学校において様々取り組んでいます。**学校指導課長** 続いて、「大きく育てよう 国分寺愛」として、現在、学校指導課と学校が一丸となって創出に取り組んでいる「国分寺学」について説明をいたします。

資料1-4を御覧ください。「国分寺学」について1枚にまとめたものです。「国分寺学」とは何か、資料の左上、項番1を御覧ください。

次代の国分寺市を担う子どもたちが、市民の方々の地域に対する思いを受け止め、主体的に地域と関わり、地域に根差した探求的な学習を進めることにより、地域に親しみ、地域に学び、地域を考え、地域に貢献することを目的とした学習です。この学びを通して、「課題解決力」、「コミュニケーション力・協働力」、「社会参画力」に関する資質・能力を育むことを目的としています。

また、項番2は目指す児童・生徒像です。地域に根差した学習を通して、地域を知り、地域を大切にする思いを育み、世界を見つめ未来を拓いていく児童・生徒。また、地域と関わり、主体的に考え、行動し、より良い地域づくりに参画しようとする児童・生徒。9年間の「国分寺学」での学びを通して、この姿を目指しています。

では、なぜ「国分寺学」かということ、この創出の背景について、右側の構想図を使い、説明いたします。

資料右側の項番5、構想図です。「第2次国分寺市教育ビジョンの基本理念」では、目指す市民の姿を掲げ、またその市民を育成することを目的としています。また、施策の方

向性Ⅰに「生きる力の育成」を掲げ、目指すまちの姿を「人と人がつながり、学びが循環するまち」としています。

また、右側にある緑の四角、『令和の日本型学校教育』で育むべき資質・能力は令和3年度に出された中央教育審議会の答申を踏まえたものですが、ここに示される資質・能力は「国分寺学」で目指す児童・生徒像に合致するものだと考えています。

中段にある図を御覧ください。「国分寺学」を中核として、2つの円が描かれています。まず中心に近い円、これは学びの循環を想定しています。子どもたちが「国分寺学」に関わる探求的な学習の中で、課題設定、情報収集、整理・分析、そして発言・実行、これを繰り返しながら、自己を見つめ直し、地域について調べたり、関わったりする中で地域を大切にする思いを育み、また、新たな課題の探求に向けて、主体的に考えようという姿勢を養っていきます。

続いて、外側の円、これは人の循環を示しています。子どもたちは学校で「国分寺学」における学びによって、青年から壮年・老年へと歩みを進めていきます。その過程の中で、地域社会でスポーツに関わり、図書館、公民館等において学びや交流を深め、やがては自分が講座やスポーツの指導者として、地域の学びに貢献していく姿、これを示しています。

このようにして、学びが循環し、人が循環し、自分が住むまち国分寺市を大切に思う心、「国分寺学」が大きく育っていく、そうした姿を示したものです。

市史編さん担当課長 それでは、市史編さん担当から、新たな国分寺市史編さん事業について説明いたします。

資料1-5を御覧ください。市史編さん担当は今年度できた部署であり、方向性については、次回の教育委員会に報告し、また庁議にも報告していきたくと思いますが、今回は特に小・中学生を中心とした子どもたちに向けた資料を作成しました。

先般、議会の指摘などもありましたが、出発点は、令和5年度の市長から示された施政方針になります。市制施行60周年を契機とした市史の再編さんに向けた検討に着手することを、市長から施政方針で示されました。

では、過去にどのような市史編さんの事業があったか、その経過と刊行物について説明すると、昭和49年の市制施行10周年からスタートし、20年ほどかけて、30年以上前に発刊されたものが現在の市史3巻です。上中下巻、上巻が昭和61年に発刊、下巻に至っては平成3年3月31日の刊行です。

今回の新たな国分寺市史編さんの方向性と目的ですが、多くの市民が国分寺の自然、歴史、文化、民俗等に関心を持ち、各地域の成り立ちやルーツに対する理解を深め、今後の学校教育、社会教育、そして国分寺の地域づくり、まちづくりに生かしていくことを挙げています。また、国分寺に関する有形、無形の歴史遺産の調査、研究、収集、整理及び保存を図り、その成果を現在の市民に公開するとともに、未来の市民に継承すること、これを市史編さんの目的として掲げているところです。

市史編さんの内容ですが、現市史刊行後の調査等で明らかになった事実については、かなり膨大な報告書があり、あるいは報告書になっていない部分もありますので、まずはしっかりと資料をつくった上で、市史を編んでいくといった形になると思います。

また、今ある市史が市制施行前ぐらいで終わっていますので、現市史刊行後の歴史について、しっかりと資料をつくっていくことになります。こちらを基本として、現市史刊行後に課題として抽出された事項を踏まえて、地域資料等の調査や研究等をベースとして、地域に生きた人々の視点から広く編さんしていきたいと思っています。現在の市史は、資料編

と通史編が少し混在しているところがあります。当時は仕方がなかったと思うのですが、その在り方も含めて、しっかり総括をしながら編さんの作業を行います。

通史編は、市民に分かりやすく親しみやすいことを基本とし、資料編は、史実を詳細に後世へ継承することを基本としています。資料編をしっかりとつくった上で、その資料編をベースにしながらし史を編んで、通史編をつくっていくという方向性で考えています。

今後、市史編さん推進委員会をつくり、そこで市史編さん基本方針を策定、これらを含め、今年度中は今の担当でやっていきたいと思います。来年度、令和6年市制施行60周年を本格的なスタートとしていきたいと思います。

4番目、小・中学生に向けた取組です。

(1) 第3次教育ビジョン策定に向けた小中学生向けアンケート項目の予定として、1点目「あなたは、あなたが住んでいる地域で、昔にどんなできごとがあったのか、知りたいと思いますか。」2点目、「あなたは、私たちの親や先祖が、昔どのような暮らしをしていたか、興味がありますか。」このような項目を考えています。事業を実施するに当たってのアンケートで、通常はこの結果を基に、事業を実施するかしないかを定めるわけですが、我々としては、小・中学生が興味を持っている、知りたいと思っている、そういった回答を期待しています。

(2) 小学校副読本の編集に参加についてです。今現在の小学校3年生の社会科副読本「わたしたちの国分寺」は令和4年度に刊行したものになります。4年に一度作成しますので、令和8年度改訂に向けて、市史編さん担当職員がその編集に携わることで、郷土の歴史に関心を持ち、各地域の成り立ちやルーツに対する理解を深める学びを推進したいと思います。

(3) 子ども市史の編さんです。小・中学生に向けた子ども市史を編さんし、これを是非すべての小・中学生へ配布することを検討していきたいと思っています。

(4) 市史編さん作業への参加です。高校生については、市史編さんグループの中の協力員のような形で参加を促していきたいと思うのですが、小・中学生の参加する場についても、工夫をしていきたい、検討していきたいと考えています。

市政戦略室長 それでは、資料1-6を御覧ください。「国分寺市市制施行60周年記念市勢要覧の概要について」説明をさせていただきます。

項番1の概要です。「国分寺の現在から未来へ」をテーマとし、平成26年からこれまでの10年間、これからの10年間に焦点を当てた内容にしたいと考えています。国分寺駅の北口再開発や、新庁舎建設を盛り込む予定です。また、写真を多用し、まちの魅力など、市民の姿を視覚的に市内外へ訴える内容にしたいと考えています。誌面構成については、国分寺市総合ビジョンの分野別の都市像と合わせたいと考えています。アピールのターゲットについては、国分寺市民はもとより、近隣の自治体の住民、また、国分寺市に住んでみたいという方にも国分寺市の魅力を伝えていきたいと考えています。

次ページ、内容です。①目次、②市長挨拶から、③データでみる国分寺市までの構成となっています。⑤ひとと文化をはぐくむまちから⑨未来につながる持続可能なまち、こちらが国分寺市総合ビジョンと連動する項目となります。中にはこくベジ等の記載も加えていきたいと考えています。

項番2、市史編さん事業との連携です。年表「市のあゆみ」の内容の確認を依頼するとともに、従来の写真と現在の写真を比較する今昔写真のページも記載を考えています。

また、仕様については、A4判、フルカラー、36ページを予定しています。紙媒体で

1,000部発行、また電子ブックを使い、より多くの方に御覧いただくような予定です。発行年月日については、令和6年11月を予定しています。

(意見・質疑の要旨)

市長 以上で説明が終わりました。皆様には、「大きく育てよう 国分寺愛 ～新たな国分寺市史編さん事業のスタートに当たって～」について御意見、御質問を頂ければと思います。活発な御意見をお願いします。

大木委員 ふるさと文化財課については、100周年に関連して、これだけ多くの事業を実施されて、多くの御苦勞があったとは思いますが、素晴らしい成果を上げられたと思っています。小学生から大人まで、恐らくぬりえなどはもっと小さいお子さんも参加されたと思いますので、日頃そこまで国分寺市の歴史に関心を持たなかった方々も、このイベントを通して、興味をたくさん持たれたと思います。いろいろ講演などもありましたが、例えば5番目のボランティア養成講座について、以前、ボランティアの方が非常に減っていることを伺った記憶があります。ただ単に一般的にボランティアを募集しますというだけでなく、このようなイベントなどを設けることによって、ボランティア希望者を増やす機会になるかと思って拝見しました。

また、歴史検定については、今回のイベントだけなのか、あるいは継続して実施されるのかということに関心を持ちました。参加対象は小学校5、6年生ということで、できれば今後も継続して実施していただき、今回もゴールド賞が出ていたこともありますので、そういったことを目指して、国分寺市の歴史検定で、ますます歴史好きのお子さんたちが関心を持って、勉強してくれるのではないかと思います。

いろいろな講座に関しては、参加者の中に中学生やそれ以上の10代の方もいますが、どうしても参加者の年齢が50代から70代が中心となっています。内容的には多少難しいかもしれませんが、できればもう少し若い30代、40代の方なども参加していただけるようなイベントが増えてくるといいと思いながら伺いました。本当にお疲れさまでした。

次に、学校指導課です。それぞれの学校で地域の特色を生かした取組をされているところは非常に素晴らしいと思いました。恐らくそれぞれの学校で行っていると思いますが、今回示されたのは、中でも特徴的なものを御紹介いただいたということで、資料の1-2などは、ここに出ていない小・中学校もあると思います。

それぞれの地域に即した取組ということでよいと思うのですが、各学校共通の取組に関しては、小学校2年生、3年生、6年生、中学校2年生だけが共通の取組として、提示されています。今すぐにとということではないのですが、共通の取組をできれば小学校1年生から中学校3年生まで実施していただいて、市内の全ての小・中学校のお子さんたちが「国分寺学」として共通のものを学んだ、その上でそれぞれの学校の取組というものがさらにプラスされると、より豊かになるのではないかと思います。

市史編さん担当においては、前回の市史の刊行後に新たに明らかになったことなどを付け加え、1,300年分の歴史をもう一度、編さんし直すということで、とても大変な作業になるのではないかと思います。それを今記録しておくというのは、今の市民、そして未来の市民へのプレゼントとして、とても重要なことだと思っています。

質問としては、今回の市史編さんの観点です。時代も変わっていますので、30年以上前に編さんされたものとは時代も変わっています。以前と今回の市史編さんでどういう視点や観点が異なっているのか、時代に即したアピールとなるような視点はどのようなものなの

かということについてお教えいただければというのが1点です。

もう1点は、先ほど説明がありました第3次国分寺市教育ビジョン策定に向けた小・中学生向けアンケート項目の位置づけです。もしかしたらこれは市史編さん担当というよりは、学校指導課にお伺いするほうがいいのかもかもしれませんが、こちらは「あなたが住んでいる地域で、昔にどんなできごとがあったのか、知りたいと思いますか。」それから2番目が「昔どのような暮らしをしていたか、興味がありますか。」と、実態を質問されているものです。これをどのように第3次国分寺市教育ビジョン策定に向けて活用する予定あるいは方針であるのかということです。

単に実態として、知りたいと思っているかいないか、興味があるかないかの数字を得るというだけでなく、知りたい、興味があるというお子さんに対しては、より興味をさらに深められるような情報を提供することもあると思いますが、それほど知りたいとは思っていない、あまり興味がないというお子さんたちに対して、どのような働きかけをすれば、「知りたい」と思う、あるいは「興味がある」と思ってもらえるのかということについて、お考えを聞かせください。

最後の市政戦略室の御説明に関しても、この要覧について非常に重要な形での取組をされると思いました。これだけ拝見すると、変化したところだけが見えるのですが、国分寺市の良さとして変わらないところ、というのもあると思います。昔から今、そして未来に関して、変わらないがゆえの良さと、変わるがゆえの良さを比較対照して、アピールしていただくと、より国分寺市の魅力が伝わるのかと思います。良さを残しつつ新たな時代に即した豊かな国分寺市ということにつながるのかと思って拝見しました。このあたりについても、もし何かお考えがあればお聞かせいただければと思います。

あとは、国分寺市内の幼稚園や保育園の年長などであれば、例えば紙芝居のような形で、昔の話を聞かせることも可能ではないかと思います。それほど難しいことでなく、「いなばの白うさぎ」のような、国分寺市の紙芝居のようなものがつくれると、より小さなお子さんたちも、ぬりえから発展したような感じで話を聞いていると、小学校に入ったときに、何かつながりが持てるのかと思います。これは恐らく市の中のいろいろな部局との連携が必要になるとは思うのですが、小さいころから、いかに国分寺市の歴史であるとか、国分寺市の魅力に触れるかということが成長していく中での国分寺愛を高める要素になるのではないかと思います。

市長 市政戦略室で、府中市と国分寺市の観光協会が漫画をつくりましたね。

市政戦略室長 国分寺・府中観光振興連絡協議会で子ども向けの漫画をつくり、お子さんが1,300年前にタイムスリップして、当時の人たちと接するという漫画をつくりました。話はそれですが、今年の9月から第七小学校の小学生に、その辺りを伝える出前講座を準備しているところです。

委員から話がありましたが、変わる良さ、変わらない良さ、確かにそのとおりだと思います。国分寺市には農地が多く、自然も残っていますので、例えば写真を使うなど、視覚的に分かりやすく伝えていきたいと考えています。

市長 市史編さん担当はどうですか。

市史編さん担当課長 観点について、現市史ですが、3分冊の分厚いもので、見ていただいて分かると思うのですが、通史というよりは、それぞれの先生方の論文が中心になっており、時代的な流れが分かるような年表もありません。年表以外の部分は総括として考えなければいけません。最近できた他市の市史を見ると、量的にも、例えば資料集で10

分冊、つくり方にもよるのですが、通史で1冊から2冊、また普及版のような、市民が手にとって見られるものをつくったり、あるいは子ども向けを作成したり、しっかりと資料を残すと同時に、その資料を基にして市民に分かりやすい市史をつくっています。現市史は手にとると重たく、そこは改善しなければいけません。なおかつ、現市史をつくった後に、縄文時代を含めた様々な資料が出てきており、それが報告書になっているものもあれば、まだ報告書ができていないものもあります。調査研究からしっかりやっていくことで、今までと全然違う市史ができるのではないかと思います。

これは近世・近代においても同じです。民俗資料室に行くと古文書がたくさんあるのですが、そのままになっているのです。これをしっかりと読み込んで、そこからまた新しい発見があるのではないかと思います。

特に現代については市制施行後に、様々な事柄がありますので、そこを編さんすることもすごく意味があって、現代に3分の1ぐらい重きを置いてやっていくのも、今回の市史編さんの課題・視点であり、焦点にする部分ではないかと思っています。

またアンケートですが、先ほども言いましたように、普通は事業を行うときにはアンケートをとって、その結果に基づいて行うのですが、今回の市史編さんについては、実施することが決まっています。そのため、アンケート結果がどうというよりは、皆さんが歴史に興味を持っているという結果が欲しいと思っています。

例えば、大人向けのアンケートでは、「あなたは、地域の歴史を知ることが、今の生活に役立ったり、地域の課題解決のヒントになると感じますか。」という項目も設けています。思いとしては、今の様々な課題、例えば人口減少であったり少子化であったり、高齢化であったりなど、そのような今の課題になっていることを解決するヒントが過去にあるのではないかと思います。過去にそういうことがあって、過去の人たちがそれを乗り越えた歴史があるのではないかと考え、そのようなことも見つけられたらいいと思っていますので、アンケートの結果として、先ほど言ったように、興味のない方に対しては、例えば子どもであれば、こちらのレジュメに書いてありますように、子ども向けの市史編さんをつくる。それが例えば「国分寺学」の資料にもなるでしょうし、「国分寺学」で学んだ結果、市史編さん作業への参加につながる、そんなことも考えながら今組み立てをしているところです。

学校指導課長 学校指導課も、このアンケート結果を受けて、結果を受け止めながら、子どもたちが自分たちの住む国分寺市に対して興味を持てるような、そうした事業を工夫していく必要があるだろうと考えています。そのためには、また新たに提供される資料を十分活用しながら事業を展開していきたいと考えています。

また、資料1-2の全校での取組、協働学習の状況ですが、共通の取組が抜けている学年もあり、そして各校の独自の取組もあるので、それぞれを共通化していくとよいとお話をいただきました。

今、国分寺学推進委員会を立ち上げて、各学校から推進委員を出しています。そして、それぞれ独自に良い取組をやっていますので、5つある中学校区を中心にカリキュラムの共有を図っています。例えば、小学校5年生の社会「これからの食料生産」ですが、こくべジを活用するとともに、農家の方からお話を伺います。これは第七小学校の取組ですが、これが同じ中学校区である第一小学校でもできるかどうか、そして共有のカリキュラム、共有の体験を持って中学校へ進めないか、そのような取組を今行っているところです。

カリキュラムについては、今年度いっぱい整備をして、次年度から実施ができるよう

に考えていて、進めていきます。

ふるさと文化財課長 ボランティアについては、確かに御指摘いただきましたとおり、登録人数がなかなか増えていかない現状があり、今年の課題として考えています。ボランティアの方は無償で働いていますので、その方のやりがいがあるのか、そこを明らかにして、焦点を当てて、事業を展開していきたいと思っています。

具体的には、学ぶ喜び、それからともに学び合う喜び、この辺りが肝ではないかと思っていますので、一人ひとりが学んだ知識をボランティアに生かしてもらって、それをチームとして、自分で学んだことを他のボランティアに教えたり、逆に他のボランティアから教えてもらって「なるほど」という発見をしたり、学びと関連づけていきたいと思っています。

歴史検定については、参加人数が少ないという課題はありますが、事業は今後も続けていきたいと思っています。問題も相当難しいとっていて、学校の先生にも見てもらったのですが、教員でも少し難しいと言っていました。ただ、子どもたちが高得点をとることになれば、それが喜びとなり、権威づけになります。ただ試験を受けただけでは、絶対に満点をとれません。自分で相当自習をして、この試験に臨まなければ難しいと思います。この姿勢は崩さず、この試験において、高得点がとれたということが、自分たちの誇りになるような試験として、これからも継続したいと思っています。

また、講演会の参加人数が高齢になっていることはご指摘のとおりです。アンケートでの反応では、去年から今年に入って、「面白かったのだがよくわからなかった。」「もっとわかりやすい講演会をやっていただけないか」という声をいただくことが多く見られました。例えば、もとまち公民館の事業では、入門編という講座を既に行っています。また、史跡案内として外国人や小さいお子さんに対して、やさしい日本語での講演を考えています。去年に行った少し難しかった講演は、逆に100周年しかできない講演ではありましたが、これを行ったことで反動というか、逆にもっと知りたくなったというような相乗効果が今、生まれてきていると思っています。難しい講演会を行いつつ、やさしいものも行うという感じで、両輪でやっていきたいと思っています。

藤井委員 ふるさと文化財課の令和4年度の100周年記念事業は、様々な魅力的なイベントがあり、改めて見直してみても、非常に充実したものをやっていただいたと思います。ありがとうございました。

各イベントは、参加者が市民に限定されたものなのか、もしくは市外からの参加者が多く見られるような事業が多かったのかどうか教えてください。市内であれば、市報や様々な市内の施設を通じて市民への周知ができるかと思いますが、市外からの参加者がいるとしたら、国分寺市から市外に向けた積極的なアピールの仕方等はどのような形でされていたのか、あるいはされていなかったのか教えてください。

ふるさと文化財課長 市内については、当然ながら、市報で広報活動をしています。また、チラシを作成し、各小・中学校や各公共施設への配架などを行っています。それに加えて、昨年度については、デジタルサイネージ等を活用して、周知活動を行いました。また、市外の方に対しては、ホームページやツイッターを活用し、こちらについては情報公開を複数回にわたって更新して、目に触れる機会をなるべく多く設けました。

藤井委員 ツイッターは私も自分の仕事で少し情報発信に使ったりしますが、若い世代にとっては、ツイッターのように文字から入るものは情報収集のツールとしてあまりそぐわなくて、我々世代のような、テレビで垂れ流しっぱなしと違って、意外と今の子どもた

ちはインスタグラムやY o u T u b eの動画という形で、映像や画像から入って興味を持たれば、最終的にそこから文字情報に入ってきます。彼らなりに読んだり、彼らなりの文法や表現で発信したりもするので、市外や市内も含めてですが、その情報を発信するツールにもう少し工夫の仕方があると、これだけ魅力的なコンテンツがあるので、もっとそれを人々に知っていただけて楽しんでいただけるかと思いました。

関連して、市政戦略室の概要でも、写真を多用する形で、映像の魅力から入るところは素晴らしいと思ったのですが、こちらも電子化して電子ブックを市ホームページへ掲載ということですが、Y o u T u b eやインスタグラムなどのSNSを使って、特に若い世代へ、積極的に自治体側からアプローチしていくようなきっかけをつくることなどは考えられますか。

市政戦略室長 SNSの活用については検討しているところであり、おっしゃるとおりインスタグラムは、特に20代、30代の若い女性に人気があるということで、調べているところです。Y o u T u b eについても、Y o u T u b eのショート動画が結構出てきて、そのような形で拡散できるかを今検討しています。

藤井委員 国分寺市には、映えるスポットもたくさんあると思いますので、そこからさらにつなげて、学校指導課の国史跡指定100周年に関わる第二小学校の取組で、「国分寺市の魅力を発信しよう」というテーマがあり、これは6年生が様々に課題設定したものを3年生を対象に発表会をするものであり、「国分寺学」の学びの循環というものとも結びついて、とてもすてきだと思います。これは純粋に聞いてみたいのですが、「発信しよう」というテーマからすると、児童がやることなので、現状では無理だとしても、将来的にこの子どもたちが大きくなったときに、国分寺市について、市外の人に向けて発信しようというような意識があるものなのか、もしくは学校内で完結するものが、たまたまテーマのタイトルとして、「発信しよう」という言葉が選ばれているだけなのか。この「発信しよう」は最終的に国分寺市の魅力を市外に向けてというような意味合いも入っていますか。

学校指導課長 第二小学校の取組に関しては、単元名で「発信しよう」という言葉を用いて取り組んでいるところです。ただ、学習の中で自分たちの学級で収めるのではなく、他者に伝えるという視点から、まずは近くの他者にとという形で3年生が選ばれたと聞いています。広くという点に関しても、市外であったり、また更に地域の方にとという点で、第三小学校においては取組がありますので、ぜひ市内の学校と取組を共有しながら学習の充実を図っていただければと思います。

市長 どんどん市外にも発信して、ぜひマリオン市にも発信してほしいと思います。

藤井委員 資料1-5、市史編さん事業で、4番の(4)高校生の協力員としての参加については、例えば国分寺高校に連携を呼びかけるというようなイメージなのか、あるいは国分寺市内在住の高校生たちに広く呼びかけるようなイメージなのか、これからこういう方向でというようなものがあればお聞かせいただければと思います。

市史編さん担当課長 小・中学生については、別に場を設けなければいけないと思っているのですが、今市史編さん担当として考えているのは、市史編さん推進委員会の中に専門部会をつくり、専門家の方と、それを補助する方と、市民の興味のある方、その三層構造を、専門員、調査員、協力員というような名称とすることを考えており、協力員として、ぜひ高校生に参加していただけないかと思います。呼びかけ方は今後工夫しますが、もちろん国分寺高校に通っている生徒も、国分寺市に住んでいる高校生も、広く呼びかけていきたいと思っています。

辻委員 本日の会議のテーマが、「大きく育てよう 国分寺愛」ということで、国分寺愛という字を見て連想したのが、昔だったら「ファン」と言いましたが、今、世の中では自分が好きなものを追いかけることを「推し」、「推し活」あるいは「何々推し」という言い方をします。それを思い出して、世の中に多分、「国分寺推し」の方がいるのだろうと思います。市内にはもちろんいらっしゃると思いますし、市外にも国分寺市の魅力を十分にわかって、深く追求されている「国分寺推し」の方がいると思いますので、そういう方々に上手に伝えていけることが大事になるのかと思いました。

その一方で、先ほどからも話が出ていますが、全員がそういうわけではなく、あまり関心がない方もいると思うのですが、そういう方の中にも、秘めた「国分寺愛」といいますか、心の中で自分なりの郷土愛というのは各自お持ちだと思いますので、表面には出てこないが、自分の居場所として国分寺市が過ごしやすい、よい場所だと思ってもらえるような活動をしていくことが大事なのかと思いました。

そのためにはどうしたらいいのかというと、好きになってもらうとか、大切に思ってもらうためには、まずその前提として、知ることが大事だと思いますので、市史編さんで改めて国分寺市のことを知ってもらうというのは非常に重要なことではないかと思います。

その一方で、先ほどからお話に出ている非常に分厚い3分冊もある現市史ですが、片手では持てないようなもので、少し国分寺市の昔のことを知りたいなと思っても、気軽に手にとって、調べるといった感じではないのかと思いますので、ぜひ、資料1-5の3番の(2)のところにもありますが、「通史編は、市民にわかりやすく親しみやすいことを基本とし」というところを重要視していただいて、先ほどもおっしゃっていたように、ハンディ版やダイジェスト版のようなものを工夫していただいて、いろいろな方に手にとっていただける形態にしたらいいのではないかと思います。

この「市勢要覧」では、電子ブックを予定ということですが、最終的に完成する市史も電子版は考えているということでもよろしいでしょうか。

市史編さん担当課長 極力デジタル化はしたいと思います。ただ、例えば港区では、デジタル化を基本としてつくりましたが、どうしても献本する分もあるので、紙ベースで1,000冊ぐらい作成したということです。必要最小限で、基本はデジタルということが望ましいのかと思います。

辻委員 本日の会議に1人1台、タブレットが配付されていて、私は会議でこういうタブレットを見ることはあまりなく、非常に新鮮なのですが、タブレットや電子版は、写真や細かい図などの好きなどを拡大して見ることができ、検索が容易であるといった優れた点がたくさんあると思いますので、活用できるとよいと思いました。

今日、実際に体験してみて、市史もこんな感じだと非常にありがたいと思った次第です。

市長 親しみやすく、そしてまた一気通貫でなるべく手軽に取りかかれる形にさせていただいて、そこから興味を持って深く細かく知りたいというところへ繋がっていければいいと思います。

富山教育長職務代理者 100周年記念事業は大変素晴らしい事業だったと再三他の教育委員も申し上げていますが、私も同感です。子どもたちが具体的な活動を通して、それに親しみ、学ぶというような工夫が十分なされていたと思いますし、親子で楽しむ、地域の人と一緒に学ぶ、というのは、広まりと深まりという点でも大変良かったと思います。

評価を見てみますと、満足度が高いところは90%以上で、最初のオープニングイベントでの講演会も87%です。講演会で87%は顧客満足度として非常に高いと思います。つまり、

私だけではなく、来られた方が皆さん満足して、帰られているような素晴らしい事業だったと思います。この成果をどう生かすかという部分で、その熱情みたいなものも含めて市史編さんの中に組み込まれていくことを期待しています。

そういった点で、学校指導課から、国分寺郷土学習の状況について説明がありました。地域素材の教材化という部分で、国分寺市には歴史的な部分だけとって、一生勉強しても追いつかないほどの国宝級とあっていい、非常に優れたものが足元に、自分の通っている場所に現実にあるわけです。現実的に子どもは、小学生、中学生を経て大人になっていくわけですが、9年間のカリキュラムだけを見ても、地域素材の教材が全教育活動の中に入り込んでいます。先ほど学校指導課長から、市内5つの中学校区ごとに「国分寺学」のカリキュラムをこれから編成していくという話もありました。この中にも100周年記念事業の成果が取り込まれて、9年間を見通したカリキュラムが国分寺市らしさを増していくことに大変強く期待しています。

さらに、市史編さん担当については、私は、通史は分厚くても字が小さくても、しっかりと残していくことで文献によって1,000年先に伝わるわけで、今を生きる私たちにとって、国分寺市が作成をする市史編さんの資料編をしっかりと残していくことは、1,000年先に物を残していくことだと思います。自信を持って、後世へ残す文献として位置づけをして、今後、小学校、中学校の9年間で子どもたちが市史を使って学びにつなげていくということが、100周年の成果を生かすことの一つになるのではないかと考えます。

そういう点で、小学生に向けた取組として、子ども市史の編さんがあります。これにはとても大きな期待をかけています。

小学校1年生の生活科から始まり、中学校3年生まで子どもたちは国分寺市で学習をし、学んでいくわけです。そういう点で、今学んでいるこの部分は国分寺市史のこの辺りですということが、新しい市史でわかるような市史編さんになっていくとよいと思います。

することにより、国分寺市で学ぶ子どもたちが小学校1年生から社会や理科、あるいは国語というカリキュラムの9年間で、配列した教科書の中だけで理解するのではなく、「あっ、あれがそうだったんだ」と自分の足元にそのものがあるということに気づいてもらえると思います。

例えば国分寺の講堂跡に行ったとき、1枚の唐草模様があるとします。それは中学校3年生の修学旅行に行けば、飛鳥文化として法隆寺の釈迦三尊像の台座にもあるので、これがシルクロードの終着点ということをお寺の人から学びます。もう一つ、薬師寺に行けば、薬師三尊像の台座に葡萄唐草模様があります。これは白鳳時代のものです。シルクロードの終点となるものが、国分寺市の武蔵国分寺にもしっかりとあるのです。

そして、奈良や京都を見ると同時に、ユーラシア大陸を見ていくと、例えば葡萄唐草文様では、中国が見えてくるし、キルギス共和国やウズベキスタンやカザフスタンを見ると、民俗衣装はその文様でつくられています。そしてローマ、ギリシャに続くわけです。そこが国分寺の文様から見えてくるわけです。

そのような子どもたちの気づきが深まるように、そして教科書で学んでいるものが自分の身近なところにこんなにもたくさんあるということに気づいて、国分寺市から日本全体へ、そして東アジアやユーラシアにもつながっているのだとわかってくると思います。小学校1年生から中学校3年生まで子どもたちが学んでいる、その学びを更に豊かにしてくれる学習材がそこに散らばっているということです。そのような子ども市史になってく

れたらという期待を持っています。

市長 国分寺市史から日本史、そしてまた世界史に広がっていき、本当に身近な足元から興味を持ってもらい、学ぶことは多いのではないかと思います。その材料は身近なところにあります。よって、そのようなことも少し酌んでいただければなと思っています。

教育長 委員の皆様方からいろいろなお話を伺っていて、「そのとおり」と思っていました。お話にあったように、国分寺市には本当に豊かな学習材、教材があると思いますし、それを活用しない手はないと思っています。それを学びの中にしっかりと取り入れることによって、子どもたちが国分寺市で学んだという意味があると思います。

教育委員会でも今年度から「国分寺学」を開始して、これから推進をしていく予定です。先ほどからお話があったように、昨年の国史跡指定100周年の様々な事業をきっかけに、こんなに歴史の面で豊かな学習材があり、歴史だけではなく自然、文化、また、専門性を有した方、地域に根差した方、いろいろな魅力的な方に学びを深める中で関わっていただけたらと思っています。

市史編さんのスタートに当たって思うのは、市史編さんは、市史をつくるということが目的だけではなく、市史編さん事業を通して、今日のテーマである「国分寺愛」を、子どもたちをはじめ、市民の方にも膨らませていくところが大切かと考えます。最終的にできあがったものが素晴らしいから、それで国分寺市を愛する心が育つのではなく、一緒につくっていくことによって徐々にその愛が広がっていき、深まっていくという編さん事業にしていきたいと思っています。

そこに「国分寺学」も関連していくでしょうし、それぞれの教育関係の部署の、公民館での講座も関わっていくでしょうし、また市長部局の市制60周年記念に関わる事業も関わっていくでしょう。市長部局と教育委員会が大いに連携し合いながら、一体となって進めていけたらと思います。

市史編さんに当たっては、親しみが湧いて、分かりやすく使える、そして、読みたくなるものを作り、デジタル化も含めて、富山教育長職務代理者がおっしゃったように、1,000年後にも残せるものをしっかりと作っていかねばいけないと思います。

先日、史跡ボランティアの方とお話しする機会があり、市史編さんの話を少ししたのですが、「ネットで調べても、国分寺市は全然市史の情報が出てこない。結局は調べたいことは紙ベースのものを、厚いものをめくりながら探していくしかない。」などという話で、「ぜひ、すぐに使える、調べられるものにしてほしい。」というお話もいただきました。市民の方も大いに期待していると思います。

また、新しい事業として紙芝居というお話もありましたし、YouTubeやInstagramの活用ということもありましたので、そういった部分もこれから取り入れたいと思います。歴史検定は人数が減っていることについては、何とか改善していかなければいけないと思います。以前、教育委員の皆さんとお話をしたときに、科学教室や算数教室はあるが、子どもたちの歴史教室がないというお話をいただきました。ぜひこれから市史編さんをしていくに当たって、そういったこともふるさと文化財課を中心に考えてもらいたいと思います。

子どもたちが学びを通して、更に関心を持った中で、その先に歴史検定があればいいと思いました。やりたいことはたくさんあるので、お金や時間などいろいろなことも含めながら、子どもたちのために、そして市民のためにも市史編さんを契機として国分寺愛を広めていく、育てていくということをやっていきなりたいと思っています。そのためにいろいろ

ろな御意見を委員の皆様方にもこれからも出していただけたらと思います。今日はその一つの機会かと思っております。

市長 教育長から今、歴史教室について提案がありました。教育長からの提案なので、教育長が中心になってやってくれるのではないかと思っています。

先ほど国分寺高校の話もありましたが、国分寺市の中には私学の早稲田実業もありますし、また、東京経済大学もあって、そちらでも「国分寺学」については非常に興味を持っているということですし、まちめぐりなどいろいろな魅力の発信もしていただいているようですから、公立の学校も負けずにやらなければいけないと思います。

新庁舎建設地で、子どもたちに発掘現場を見てもらったのも、非常に良かったのではないかと思います。常にそういう視点を持っていると、いろいろと学ぶきっかけになると思います。今回も市制施行60周年もありますし、冒頭申し上げたように、教育ビジョン、総合ビジョンのちょうどスタートでもあるということで、きっかけとしては素晴らしいと思います。これを生かさない手はないだろうと思います。

教育長 もし何かこんなこともできるのではないかという意見や提案があれば、ぜひお話を伺えたらと思います。

市史編さん担当課長 前回の市史編さんからストップしているので、調査研究段階からしっかりと資料収集を行い、10冊になるのか20冊になるのか、資料編の資料をつくるのがまず一つとなります。そこから抽出して、市民にわかりやすい市史を編んでいくところを次の段階として考えます。その一つとして、資料編から凝縮して、子ども市史をつくるのは、多分大変な作業になると思うのですが、ぜひ市民を巻き込みながら、市民の方が国分寺市の歴史にいろいろな角度で興味を持っていただけるようにと思っています。

私も、40年近く勤めていてわからないことを、この3か月間に市史編さん担当係長から、毎日毎日レクチャーしていただいて、相当いろいろなことを知って、わくわくしているところです。これからもわくわくしながら、進めていきたいと思っています。よろしくお祈りします。

市長 一段と国分寺愛が強くなっているようなので、ぜひ体現していただければと思っています。

私も全国を回ることがあって、各地の国分寺の史跡を回りましたが、本市の国分寺はどこにも見劣りしないだけの規模があります。そういうものを生かさない手は全くないと思いますし、国の宝ではあるのですが、本市にとっても宝なので、国分寺市にあるということは大きいのではないかと思います。また武蔵の国の国分寺というのは、本当に国の大きなお寺でしたから、隣の府中市とも連携しながら、ここが武蔵の国の東京都と埼玉県と神奈川県を中心だったのだということをアピールしたいと思っています。

東京都でやっていますが、今年は神奈川県から東京都にこの多摩地域が移管されて130周年であり、いろいろな意味で大きな歴史の転換点かと思っていますので、これをしっかりと残していきたいと思っています。

強制するわけではありませんが、子どもたちが「国分寺愛」を知ることによって、自分たちの生きる力、命の大切さなどにつながってってもらえればと思っています。本当に大きな取組になると思いますが、しっかりと100年の事業、1,300年の事業としてやっていき、これからの人たちに引き継いでいてもらいたいと思います。国分寺市一丸となって、やっていきましょう。ぜひよろしくお祈りいたします。

藤井委員 今市長から地元愛についてお話があったので、私の地元の話をしますと、私

は地元が備中高松で岡山県なのですが、本能寺の変が起こったときに秀吉が水攻めをやっていたのが、備中高松城で、時代劇で大体ちらっとだけ映るところです。そこに備中国分寺があり、私の家から自転車で遊びに行くところであり、残念ながら塔は五重塔です。ただ塔が残っています。

かつての備前の国は岡山市の辺りですが、私の地元の備中高松は備中の国でしたが、昭和30年代に岡山市に吸収合併されました。私の両親の地元は備中高松ですが、昭和12年生まれの両親が小・中・高を出るまでは、住所が吉備郡高松町でしたが、2人が結婚して、東京に出て、自分が生まれて、私の小学校入学に合わせて地元に戻ったら、吸収合併で岡山市になっていました。私自身の幼い記憶ですが、昭和53年当時に「ぼくらの岡山市」という冊子を学校で配られて持ち帰り、調べ学習の時にその冊子を使い、リビングで勉強していたら、父親がにやにや笑いながら冊子を見て、「健志は自分のこと、岡山市民じゃ思うとるか」と言いました。私は岡山市小山に住んでいるし、岡山市立庄内小学校の児童でしたので、何を言っているのだろうと思ったら、母親が「お父さんとお母さんは、自分たちのことを高松町民だとまだ今も思っている」と言われ、子どものときは意味が分かりませんでした。高校生ぐらいになると、同級生に、「藤井は地元どこ」と聞かれ、「高松じゃ」と答えたら、「高松か」と言われ、その反応で、もともとの岡山市民から見ると、備中高松は僻地、あるいはえせ岡山市ぐらいに見られるのだと思いました。その後の地元の教育や仲間たちとのつながりから、私は今でも岡山市民だという意識がありますし、でもそれは絶対的なものではないのだという意識もあります。相対化されていることも自分にとっては、一つの財産だと思っていますし、歴史を学ぶことは、自分というものが世界の中や歴史の中で今ここにいるというのを醸成していくすごく大事な部分だと思っていますので、市史編さんを行っていくタイミングで、私は国分寺市民でいられることを大変光栄で、幸せに思っています。

富山教育長職務代理者 先ほど市長から、武蔵国分寺は規模からしても全国の中でも、大変大きいというお話がありましたが、その実感が私にはなかなかなかったのですが、「あっ、本当にすごいんだ」と思ったことがありました。讃岐国分寺の七重塔の跡を見た後、資料館に立ち寄りましたら、学芸員さんが説明をしてくれまして、名乗っていなかったもので、帰るときに「実は国分寺市から」と言ったら、はっとして「見ましたよ」と言われ、何を見たのだろうと思ったら、「タモリの『ブラタモリ』を見ましたよ」とおっしゃいました。その後、学芸員さんが言ったのは、「私だけではありません。この地域の人みんなあれを見えています。見ているはずですよ。私は、国分寺がこのようにNHKで報道されて、うれしかったです。こんな誇りはないですよ。」と言われて、「ああ、そうだったんだ」と思いました。

先ほど子どもたちに歴史教室をという話がありました。国分寺は、国分寺建立という本当に素晴らしい大きなプロジェクトの中で、疫病で人々が死んでいくのを防ぐためにも、国づくりをしようというときにできました。このような大きな規模になっても、それだけ大きなよい国をつくりたいという気持ちが当時の人々にあり、今を生きる人々の中にもあって、だからこそ讃岐国分寺跡資料館の学芸員さんも「見ましたよ」という感じになってくるのだと思います。偏狭な郷土愛ではなく、そういう先人からの思いが歴史学習の中で子どもたちの中に芽生えてくれたらいいと、そんな思いを抱きました。

辻委員 感想を一つ言わせてください。「国分寺学」について、今日の資料の中でも丁寧に御説明いただきましたが、「国分寺学」を今年度からスタートしますという話を聞いた

ときに、自分の知識の浅薄さがあらわれてしまいますが、最初に「国分寺学」と聞いて、武蔵国分寺を中心とする国分寺をみんなで勉強するのだと思ったのですが、その後よく見たら、そうではなくて、武蔵国分寺だけではなく、国分寺市の郷土の文化や産業、歴史などを全て含んで国分寺市のことを学びましょう、というものなのだと思います。もしかしたら保護者の方や地域の方の中にも、武蔵国分寺跡の史跡に特化して勉強すると勘違いなさっている方がいなければよいなと思ったのが一つです。ぜひこれからも「国分寺学」を地域にアピールしていけたらよいと思います。

私も自分自身は知識がなく、よく富山教育長職務代理者から教えていただくのですが、武蔵国分寺に限らず、江戸時代あたりの歴史でも素晴らしいものがどんどん見つかるし、保存されているということなので、歴史といっても、奈良時代だけでなく、江戸時代のものも含めて、子どもたちに今後触れていってもらえたらいいと思いました。

大木委員 私自身も歴史の知識が乏しいので、富山教育長職務代理者をはじめ、学校指導課長などのお話が、なるほどと授業を受けているような感じで拝聴していました。

先ほど私が、市史編さんについてどういう視点とか観点があるのかということを知ったのも、データとして残すこと自体は、まず必要というのは当然理解しています。ただ、それだけだと、どう活用するかといったときに、関心のない大部分の方にとっては、人ごとになると思うのです。ですから、子どもたちの学びもそうですが、市民にとっても、どうすれば自分ごとになるかという観点がすごく大切だと思っていて、先ほど説明の中で、昔起こった出来事が今にも共通していて、解決のヒントになるのではないかという話がありましたが、そういうところなどをアピールしていただくと、ただ単に研究者のためとか、データのためというだけでなく、市民にとっての意味づけになるのかと思って伺いました。

本当に大変な作業だと思いますが、ぜひ1,000年後の市民へのプレゼントとして残していただけるように御尽力いただければと思っています。

市長 様々な御意見、アイデアをいただきましたので、これを生かしてこれから市史の編さんに携わっていただきたいと思っています。

今までいただいた意見を参考にしながら、教育委員会と市長部局が一緒になって、国分寺市の魅力を市史としてまとめていきたいと思っています。それに付随する形でいろいろな事業があると思いますので、市制施行60周年も含めて大きく国分寺市の過去、現在、そして将来に向けての市史編さんをやっていきたいと思っています。

今日は、本当に夢のある話を聞けました。少し時間が足りなかったと思いますが、この余韻を引っ張ってもらって、また教育委員会でもお話しいただけたらありがたいと感じ、また子どもたちに伝えていきたいと思っています。

3 その他

なし

4 閉会

市長 それでは、令和5年度第1回総合教育会議を、これをもって閉会とさせていただきます。